

交通事故ゼロを目指して!!

誠之小学校に飛び出し注意看板寄贈 NPO法人どんぐりの会



広域対応型の学童保育施設の開設をめざし今年8月に設立した津市町中のNPO法人どんぐりの会（木崎美理理事長）が、津市久居西鷹跡町の市立誠之小学校（馬場明生校長）に飛び出し注意看板30枚を寄贈。7日、同校校長室で寄贈式と感謝状贈呈式があった。

同会は企業などから寄付で主に小学校への飛び出し注意看板の寄贈を計画。馬場校長が木崎理事長の小学校時代の恩師という縁で、今回の寄贈1校目となった。注意看板は縦60cm、横30cm。男子の絵が描かれ「とびだし注意」の文字と協力企業名が書かれている。

式では、馬場校長が「たいへんありがたい。今後学校・家庭で児童へ交通安全について徹底して指導していきます」と述べ、木崎理事長から注意看板を受け取った。学校から感謝状が贈られ、同校PTAの石川禎紀会長が「いろいろな人のつながりを感じ大変ありがたい。」

木崎理事長は「今後は要望のある学校に、久居地区から順次寄贈していく。子どもの安全を願うのは皆同じ。地域の会社・企業から少しずつ寄付をしていただけたら」と話した。

同校では馬場校長が中心となって子どもたちの通学路の安全の見直しを行っている。今年度は保護者に地域での危険箇所の確認作業を依頼。街頭指導に立つて交通安全対策を実施すると同時に危険箇所への飛び出し注意看板の設置を検討していた。

飛び出し注意看板 津の誠之小へ寄贈

NPO法人「どんぐりの会」



【津】子どもを守る環境をつくる津市久居中町のNPO法人「どんぐりの会」が、津市久居西鷹跡町の市立誠之小学校（馬場明生校長）に、飛び出し注意看板三十枚を寄贈した。

同団体は広域対応型学童保育施設の開設を目指し、今年八月に設立。企業などから寄付を得て、学校への飛び出し注意看板寄贈を活動の柱にしており、馬場校長が木崎理事長（この小学校時代の恩師である縁で、同小を第一校に選んだ）。

看板は縦六十センチ、横三十六センチで、男子の絵と「とびだし注意」の文字が描かれており、下部に協力企業の名前が入っている。今月中をめどに危険箇所を設置し、維持管理は同団体が行う。今後は要望のある小学校に、久居地区から順次寄贈していくとともに、広く企業に寄付を呼び掛ける。

木崎理事長は「ドライバーへの注意喚起に役立ててほしい」と話し、馬場校長は「注意看板は財源がなかなか設置できずいたので、大変ありがたい」と喜んでいた。

馬場校長（右）に看板を寄贈する木崎理事長（津市久居西鷹跡町の市立誠之小学校）



飛び出し注意看板を寄贈した（左から）木崎理事長、伊藤代表と各校の校長ら＝津市桜橋の市立南立誠小で

飛び出し注意の 看板20基を寄贈

どんぐりの会と
イセツトが協力 津の4小学校に

【津】津市桜橋の市立南立誠小学校で十五日、飛び出し注意看板の寄贈式があった。市内のNPO法人「どんぐりの会」（木崎美理理事長）が企業に協力を呼び掛け実施する事業で、津市の警備会社「イセツト」の伊藤尚貴代表（五五）と木崎理事長（三三）らが来校し、市内四小学校の校長に看板を手渡した。

同NPOは昨年八月に設立し、企業の寄付を募って飛び出し注意看板を設置している。企業は一基につき六千円と管理費月額千五百円を負担し、同NPOが設置と維持管理を行うもの

で、これまで八校区に六十基を設置。今回趣旨に賛同した同社から二十基の寄付があり、校区に本社がある同小を中心に南が丘▽高茶屋▽敬和の四小への設置が決まった。

寄贈式では木崎理事長が

各校の校長に看板を手渡した。出席した石川博之教育長は「年数のたった看板の管理は難しい問題だった。NPOと地元の企業が子どもたちの安全に協力していただきありがたい」と謝辞した。

また同社と同NPOは、今後機械警備の契約二十件につき看板一基を寄付する協定を締結。伊藤代表は「企業の発展と共に貢献できるやりがいのある地域支援。より多く寄贈できるようにしたい」と述べた。

夏休み体験イベントで児童18名が 水遊びや料理楽しむ

学童保育「どんぐりの家」

津市高茶屋の広域対応型学童保育「どんぐりの家」木崎美理事長が、今年7月28日～31日、夏休み体験イベントが行われた。「どんぐりの家」は、仕事と子育ての両立を目指す人達を応援しているNPO

でも、保護者に息抜きしてもらいたいと企画した。市内の小学生18名が参加し、絵を描いたり、ビニールプールで水遊びするなどしてのびのびと過ごした。また、美杉のスキヤヒノキを使った自由



わきあいあいと水遊びを楽しむ子供達

工作や、皆でカレーライスなどの昼食を作る食育も行われた。初対面の子供達も和やかな雰囲気なかで自然にうちとけ、わきあいあいと遊んでいた。

参加した養正小2年の前田恋奈さんは「新しい友達がいっぱいできた。カレー作りでお米を洗ったり、プールで遊ぶのも楽しい」と話した。

久居運送

「とびだし注意」看板寄贈

【三重】1949年に地域住民への小口貨物集配業務の担い手としてスタートして以来、産業、経済の発展と高度化に寄与する輸送と、高品質なサービスを提供してきた久居運送（菅内章夫社長、津市）。同社はこのほど、地域における交通安全、防犯活動の推進に関する活動と



菅内章夫社長

して、NPO法人どんぐりの会（木崎美理事長、津市）へ飛び出し注意を喚起する看板を寄贈した。菅内社長は「運送事業者として、地域の交通安全のためにできることはないかと考えていたところ、どんぐりの会から話があった。この機会に協力することを決めた」と話す。

注意喚起の看板は、同社近くの信号機のない交差点に設置された。この周辺



は住宅地となっており、近くの小学校に通う児童の通学路にもなっている。「登校中の児童が交通事故に巻き込まれないよう、少しでも看板が役に立てば」と同社長。また、看板設置は「地域の交通安全はもちろん、自社や運

動をすること、交通安全への取り組みを世間へアピールでき、運送業界全体にとっても社会的地位の向上につながる」と話す。同社はこの活動以外にも、社内での月1回の定例会を開くなど、安全への取り組みに力を入れている。菅内社長は「定例会では、ドライバー向けに事故事例などの説明をしているが、一方通行の説明になりがち。今後は、ドライバーからも多くの意見をもらい、双方で安全に関して取り組んでいけるようにしたい」と、交通安全に積極的に取り組んでいく。（出水駿甫）

子育て支援3団体 麒麟財団が助成

名古屋で贈呈式

目録を手にする団体関係者と山口支社長（右から2人目）＝名古屋市西区の麒麟ビールマーケティング中部圏統括本部で



麒麟福祉財団（三宅占二）による二〇一五年度「麒麟・子育て応援事業」助成金贈呈式が十八日、名古屋市西区牛島町の麒麟ビールマーケティング中部圏統括本部であり、県内からは子育て支援に取り組む三団体に合計八十九万円が贈られた。

助成を受けたのは「特定非営利活動法人どんぐりの会」（津市）、「ミエメロン」（松阪市）、「子育てサロン みどりの芝生」（四日市市）。

同事業は、地域に根付く小さな福祉活動を支援しようとして、平成七年度から公募を始め、同二十六年までに全国千八百三十四団体に、約四億九千万円を助成。本年度は全国から二百七十六団体の応募があり、贈呈式で麒麟ビールマーケティング三重支社の子和支社長は「今回の助成を生かして、将来を担う子どもたちが大きく育ってくれば」とあいさつし、県内三団体の代表者に助成金の目録を手渡した。

流しそうめん

次々と流れるそうめんを箸で懸命にすくう児童たち＝津市高茶屋で



児童らは、次々と流れてくるそうめんを箸で懸命にすくって食べた。津市南が丘小四年生の遠山さくらさん（八）は「どんどん流れてきたけれど、簡単につかんで食べることができたよ」と笑顔で話した。

（畑間香織）

保育所を運営するNPO法人どんぐりの会が、夏休みのイベントとして開いた。竹を半分に分けて、長さ約六分の台を設置。白のほかに、ピンクや緑色のめしめんを流し、流しそめんを楽しんだ。

津市高茶屋の学童保育所「どんぐりの家」で、児童二十二人が流しそめんを楽しんだ。

仕事と子育てを両立できる環境 「みえの現場すこいやんかトーク」 津市高茶屋“どんぐりの会”



知事が県内各地を訪れ、地域で頑張っている人たちの対話を通じて、地域の現状などを共有する「みえの現場すこいやんかトーク」が3月6日（日）、津市高茶屋町の津市広域対応型学童保育「どんぐりの家」で開かれた。特定非営利活動法人どんぐりの会のメ

ンバー5人が参加し、「安心して仕事と子育てを両立できる環境づくり」をテーマに知事と対談した。どんぐりの会の木崎美美理事長（35）が「少しでも低料金にするため、収入源として通学路などの危険箇所を立てるとびだし注意」看板の設置事業を考

案。企業に製作費等を負担してもらった代わりに看板には協賛企業名を記し、協賛企業の従業員が同学童保育を利用する場合は料金を割り引くシステムを作った」と学童保育の運営方法を説明し、「企業にとっては子どもを守る社会貢献活動としてイメージアップにつながり、福利厚生にもなる」と強調した。

知事は「このシステムは1、2位を争うぐらい素晴らしい案だと思う。家族のありようも多様化するなか、子どもにとっては家族だけで見るよりいろいろな人との関わりが必要。子育て支援のつよの大きなモデルとして期待しています」と激励した。

段ボールを使い工夫を凝らし制作 人を喜ばせるバス停 どんぐりの家の児童21名

広域対応型学童保育「どんぐりの家」津市高茶屋Ⅱで8月26日、「子供向けモビリティ・マネジメント事業」が行われた。協力Ⅱ三重県地域連携部交通政策課、県内の父親などによるグループ「ミエメン」。

子供達に公共交通（路線バス）に関心を持ってもらい、将来的にバスの利用者増に繋げることが目的。学童を利用している小学1年〜5年の21名が参加した。

まず同課の川端賢一さんが、バスの利用者が減っている現状と、「本数が少ない」「バス停で来るのを待つのが嫌」などの声があることを説明。

乗客が増えるアイデアを考えてほしいと

子供達に呼びかけた。そして子供達が段ボールなどを使い「人に喜んでもらえるバス停づくり」に挑戦。立成小5年の逸見誠紀くん（10）は、「疲れている人を喜ばせるバス停で、飲み物やテレビ、ベッドと寝ていてバスに乗り遅れないように目覚まし時計も置きます」と話した。完成したバス停は24日、県総合博物館で開かれる県バス協会のイベントで展示される。



楽しみながらオリジナルのバス停をつくる子供ら

津一灯会が感謝状贈る どんぐりの会の会長の木崎理事長へ



「安全・安心で住みよい街づくり」を目指し、警察の支援やボランティア活動を行っている「津一灯会」赤塚高之会長、会員55名が12日、津市大門の津都ホテルで定例会を開催。安全推進活動により地域に貢献している「NPO法人どんぐりの会」の津市高茶屋の理事長・木崎美菜さん(36)を表彰した。

木崎さんは、シングルマザーとして子育てしながら働く中で悩みを経験したのを機に、同じように仕事と子育ての両立を目指す人達を応援した

いと、2013年に同法人を設立。

広域対応型学童保育を運営するほか、地元企業からスポンサーを募り飛び出し注意を喚起する看板を市内の通園通学路に設置しており、現在、スポンサー企業数は約85社、設置した看板は約237枚にのぼる。

赤塚会長から感謝状を受け取った木崎さんは、厚く謝辞を述べた。また抱負を「学校から看板が欲しいという要望を沢山頂いているので、聴き続けるのは大変ですが、応え続けたい。学童は、今ある学童と共存しながら、ほかの地域にも広げていきたいです」と力強く話した。

どんぐりの会に助成金

NJT東海支社 NPO助成事業 木崎理事長「有効に活用」



JT東海支社(池崎順二社長)は十七日、名古屋市中村区名駅の名古屋マリオットアンソニアホテルで、同社は社会貢献活動の一環として、非営利法人が実施する「地域コミュニティの再生・活性化」につながる事業に助成しており、今年度助成金交付式を開き、県内からは特定非営利活動法人どんぐりの会が、今年度は全国から応募申請のあった百九十八件の中から、五十一事業に対し総額約六千八百三十五万円を助成する。どんぐりの会は、飛び出す看板の設置・維持管理や、広域対応型学童保育の運営などをしており、今回の助成金は現行の看板の耐久性を向上させるため、看板の支柱を太くすることに活用される。

池崎支社長から助成金交付書を受け取った木崎理事長は「いろいろな思いがこもったお金だと思うので、重く受け止めて有効に活用したい」と助成金の交付を喜んだ。

世界のトイレ事情紹介

リクシル
三重支店 津で児童らに出前授業

【津】津市高茶屋五丁目 業があった。同市高茶屋小の広域型児童保育「どんぐりの家」で二十四日、世界のトイレ事情を学ぶ出前授業が協力し、一六年生児童



環境を考えるきっかけに
理解を深めた。
取組みの一環
で津市では初開
催。同支店の田中
里恵さん(四二)が
講師を務めた。
田中さんは、粗
末な囲いと穴を開
けただけのトイレ
を使う途上国の現
状を写真で紹介。
「トイレが不衛生
な問題で命を落と
す五歳以下の子は
世界で一日八百
人」や「トイレが
なくて学校に行け
ない子がたくさん
いる」……
児童に簡易式ト
イレを紹介する
田中さん(中
奥)＝津市高茶
屋五丁目の「ど
んぐりの家」で

「どんぐりの家」で記念植樹 どんぐりが実るシラカシの木



特定非営利活動法人
どんぐりの会(木崎美
美理事長)は2日(月)、
津市久居小野辺町に移
転した広域対応型児童
保育「どんぐりの家」
でシラカシの木の記念植
樹を行った。
移転新築にあたり設
備を納入した(株)LEXI
L三重支店(室橋大輔
支店長)からシラカシの
木が贈られ、この日の植
樹会に。園庭の隅に木
崎理事長と代表児童、
室橋支店長の3人が協
力して穴を掘り、木を
植えた。シラカシは成長
が早く、高木となって緑
と木陰を提供してくれ
る。根元には「やがて
世界を笑顔にするどん
ぐり」のプレートも設置
し、個性を大切に、世
界に羽ばたいてほしい
との願いを込めた。木崎
理事長は「どんぐりの
実を拾って、山に植える
いく計画です」と話す。
「どんぐりの家」は開
設4年を迎え、定員を
超える利用希望があり、
さらに今後の施設運営
(保育事業の拡大)を
考えて3月12日に移転
した。



公共トイレや海岸清掃

津 学童保育と住宅設備会社

【津】津市久居小野辺町 園と周辺の海岸で清掃奉仕の広域型学童保育「どんぐり」の家」の児童が二十八日、同市香良洲町の浜風公

拾った。

一昨年からの協働する住宅設備メーカーリクシル三重支店との企画。トイレ掃除は二回目。今年と同社の「観光地トイレおもてなし清掃」として同支店の社員十人と共に作業した。

児童らは男▽女▽多目的のトイレと海岸の四班に分かれて清掃した。トイレでは洗剤を使ってブラシでこすった後水を流し、汚臭のする場所にはクエン酸スプレーを使った。海岸では約五百メートルにわたってごみを拾い、皆汗だくで取り組んだ。

市立養正小五年の河合泰乃さん(左)は「公園のトイレは皆が使うから掃除が大変だけどその分きれいになるとうれしい」と話した。

池田美美代表(右)は「進んで掃除ができて公共施設を汚さない、ごみを捨てない子に育ってほしい」と述べた。

皆で仲良くぺったん

久居で児童が餅つき



餅つきをして楽しむ児童たち＝津市久居小野辺町で

広域対応型の学童保育を手掛ける津市久居小野辺町のNPO法人「どんぐりの会」で二十七日、年末恒例の餅つきがあった。参加した児童らはきねを振り下ろして餅をつき、あんこやきなこを付けて食べた。

子どもたちに日本の伝統を知ってほしいと、同会とLIIXIL(リクシル)三重支店が共催。約二十キロの米を使って、小学一～五年

生の四十六人が餅をついたり、出来たてを味わったりした。

戸木小一年の長崎涼君(セ)は「餅をつくときに石のつすに当てちゃった。重くて大変だった」と話した。餅を食べた同小一年の中島聡太君(モ)は「もちもちした。風が強くてきなが飛んじやったけどおいしかった」と笑った。

(杉山果奈美)

NPO法人どんぐりの会の新事業

就労継続支援B型「リベルタ」

水福連携で障害者に働きがい

2014年から広域対応型学童保育「どんぐりの家」を運営しているNPO法人「どんぐりの会」津市戸木町、池田美英理事長が、同町に就労継続支援B型事業所「Liberta（リベルタ）」を新たに開設。



「好氣的脱窒装置を取入れた完全閉鎖型水産システム」(どんぐりの会が鳥羽市の水産漁業事業所での試験に使用したもの)



理事長の池田美英さん

東京海洋大学による特許技術「好氣的脱窒装置」を取入れた完全閉鎖型水産システムを使用し、水福（水産と福祉）連携などで、障害者が自由に職業を選択し「やりが

い・生きがい・働きがい」を感じ、幸せな人生を歩むことをサポートしていく。池田さんは、シングルマザーだった時に息子を育てながら企業で働き、やりがいを感ずる一方で多くの苦労や悩みを経験したのをきっかけに、同じように仕事と子育ての両立を目指す人達を応援したいと同法人を設立した。

リベルタ開設のきっかけは、会社員時代、身体障害を持つ同僚が、障害者であるためにPCの高度なスキルを生かした仕事をすることが困難な状況を目の当たりにしたこと。同システム

は省スペース・低コスト、簡単な操作で、水産物を陸上養殖・畜養できるもの。水槽や、水産物の病気や死の原因となる「硝酸」を分解する同装置などを備え、水槽の水替えが不要。

リベルタでは近日、幅約2m、奥行1.6m、深さ70cmの水槽を備えた同システムが屋内に完成予定。利用者はシステムを使い水産漁業者が収穫した水産物を畜養・水質管理することでスキルを習得し、水産漁業者への就職を目指す。水産漁業者の人材不足解消への貢献も期待される。飼育した水産物は飲食店などに販売する予定。障害がある人のうち一定数いる、水を見たり触ることが好きな人もこの



就労継続支援B型施設「Liberta」の外観

職業訓練の対象。利用者はこのほか、併設の学童に通う子供のおやつ作りなど、様々な活動を選択できる。池田さんは「私自身、以前は取り柄や資格がないことに劣等感を持っていました。今は好きな仕事をしていて幸せなの

で、みんなが楽しく働ける事業所になりたいと思っています」と話す。定員20名。見学を随時受付中。主な対象は知的障害がある人。そのほかの障害の人も利用可能な場合があるため、希望者は相談を。問い合わせは 0538・14564。

障害者にも幅広い仕事を

「障害があってもやりたいことを見つげられる場所が必要」。先進的な水産システムを取り入れた就労支援B型事業所を津市に開設した。広域型学童保育の運営に加えての新規事業。学童施設と隣接させ「子どもに関わるいろいろな仕事も提供できる」と話す。

スポットライト

かつて勤務していた企業で障害者雇用の知人がIT機器に精通しながらも単純作業しか与えられない現実に「なぜ」と感じた思いが原点にある。偶然知った特許取得の先進水産システムを「これなら障害があっても扱える」とひらめき、一気に決断した。7年前にNPOを立ち上げ

市居新町 津久居新町 池田芙美さん(39) B型開設の事業所を



「いつかやりたい」を次々と実現させてきた。飛び出し注意看板に企業広告を付けるアイデアで資金を集め、翌年には休日も預かれる学童保育を一軒家を借りてスタート。一昨年に施設を新築移転して乳幼児保育も始めた。水産連携の事業所はこの春完成した。2施設目の学童と隣り合う。「子どもたちが障害のある人に偏見を持たずに育ってほしい」と力を込める。「いつか飲食店に障害者が養殖したものを出荷するA型事業所に」と夢は広がる。選挙に誘われても「自分が社会で実践したほうが仕組みが定着する」と一蹴し「皆にとっていい社会になるよう頑張りたい」と、(裕)